

主にイギリスでの医学部受験における私の雑感を含めた記録です。長文にはなりますが今後の参考になればと思い、以下に追記させていただきます。

-Year12

Autumn term

- 1、A-levelは何を目指すにしても基本となってくるので、2年次にA-levelで困らないようにコツコツ毎日勉強を進めました。先取りをする必要性は個人的にはそこまで感じませんが、授業で出てきた内容は人に説明できるくらいまで理解度を上げておきました。
- 2、学校の医学部やオックスブリッジの説明会に参加し、何をすべきなのか大まかな見通しを立てました。
- 3、医学部を目指している旨を先生に伝え、アドバイスをいただきました。（があまり役立つことは教えてもらえなかったもので、結局自らネットで調べたり先輩に聞いた方が良かったかもしれません。）日本の塾のようなものがないので情報は自分で調べないと出てきません。特に医学部はやらないといけないことが多いので早い段階から事前によく調べておくことをお勧めします。
- 4、実際にイギリスの病院で働かれている日本人のお医者さんにお話を聞くことができ、刺激を受けました。
- 5、冬休みにボランティアをするために面接の練習や推薦状を書いてもらいました。

Christmas holiday

- 1、A-levelの生物が伸び悩んでいたため、生物だけは学校外で追加のレッスンを受けました。
- 2、幼稚園で子供たちのお世話をするボランティアをしました。（医学部では、病院での研修とそれ以外でもボランティアの経験があった方が有利になります。）（ボランティアなどの情報は、あまり調べても出てこなかったり、出てきても高額なものが多いので先輩や先生に聞いてボランティア先を決めてもいいかもしれません。）

Spring term

- 1、UCATとBMATについて調べ始め、UCATは少しずつ勉強を始めました。
- 2、January Mockがあり、Predicted gradeを決める一つ材料になるのでテスト形式に慣れるために過去問をいくつか解きました。
- 3、ケンブリッジ大学とインペリアルカレッジを見学しに行き、ケンブリッジ大学に一目惚れをしました。ここで絶対勉強したいと強く思いモチベーションを維持していました。

Easter holiday

- 1、ロンドンで一週間医学部に行きたい人たちが集まって研修を受ける機会があったのでそれに参加し、面接の練習や模擬の医学部の授業を受けることができました。ここで、本当に医学部に行きたいか見極めることができると思います。
- 2、本格的にUCATの勉強を始めました。特にAbstract reasoningは回数をこなせば必ず高得点が狙えるセクションなので問題をたくさん解きました。

Summer term

- 1、End of year Examがありこれに基づいてPrediction gradesが決まるのでそれに向けて復習と過去問をたくさん解きました。この時期にたくさん勉強しておいたので、実際にA-level本試験を受けるときにYear12で習った内容をまるっきり忘れていたということがなかったので良かったです。
- 2、UCATとBMATを本格的に勉強しました。
- 3、Personal statement用の本を読み始めました。

Summer holiday

- 1、UCAT本試験を受けました。結果は上位15%に乗りました。予想していたより良い成績を取ることができたので良かったです。

- 2、IELTS を受け、一年で英語がどの程度成長したのか確認しました。Writing が日本にいた時と全く同じスコアで少しショックでした。そして半年後に私は IELTS の Writing に相当苦戦することになります。
- 3、ケンブリッジの Open day(オープンキャンパス)に参加しました。改めてこの大学に行きたいと強く感じました。いくつかカレッジを訪問し行きたいカレッジを絞りました。
- 4、タンザニアに8月の間滞在し、医療と公衆衛生のインターンシップに参加しました。到着した週にコロナにかかりダウンするというハプニングもありましたが、将来何をしたいか具体的なイメージが少し湧き、さらに自分が今までどれだけ恵まれて生活しているかに改めて気付かされ、とても良い経験になりました。
- 5、Personal statement(PS)の draft を完成させ、先生に見せられる状態まで仕上げました。私はタンザニアに滞在中、ネット環境が悪く PS があまり進められませんでした。また、完成させるのにとても時間がかかり最後の方とても焦ったので、精神的なゆとりを考えて PS は早めに書き始めることをお勧めします。
- 6、BMAT に力を入れて勉強しました。特に Section3 の Essay のパートはたくさん練習が必要でした。
- 7、志望校を大体絞ります。最終決定はまだ先ですが、時間があるうちに調べ物は済ませておきましょう。Year13 の秋は調べ物をしている余裕はあまりなく、UCAS 登録、Entrance Exam の準備、Interview の準備等で人生で最も忙しくなると思います。

-Year13

Autumn term

- 1、Personal statement を完成させます。様々な人に見せてアドバイスを聞くことでより良い分になります。あくまで自分のエッセイなので自分の文章であることが大事です。
- 2、UCAS の登録を期限までに終わらせます。オックスブリッジと医学部は期限が普通より早いので注意が必要です。また、ケンブリッジはケンブリッジ大学専用の応募プラットフォームもあるので、全てを正しく入力するのにとても時間がかかりました。
- 3、BMAT/other entrance exam が10月中旬にありました。これに向けて放課後や Prep の時間ほとんどを注ぎ込みました。というのも、この結果をもとにインタビューや合否がきまるので、とても大事なテストになります。
- 4、Interview の練習を Entrance exam が終わった瞬間に始めました。医学部の中でもオックスブリッジと他大学では全くインタビューで聞かれるところが異なり、両方の練習をする時間を取るのが大変でした。オックスブリッジではアカデミックな面接で、生物や化学についての質問だったり、グラフを読み解いていくタイプの問題もあります。答えの正しさより、その理由づけや論理的にまとめて話す力、プレッシャーの中でどれだけ力を発揮できるかなどが見られます。私の受験した Queens' College では事前に自分の興味のある分野を面接官に伝えておくことができ、興味のある分野の本や論文を読み理解を深めておいたことで試験中落ち着いて受けることができました。一方他の大学では人間性を見ていて、リーダーシップやチームワークを発揮した時の経験や NHS の問題点、医療倫理問題についてなど、幅広く質問されます。英語力の観点から私は後者の面接の方が何倍も難しく感じました。MMI を導入している大学もあるので自分に合うタイプの試験が受けられる大学に出願するといいかもかもしれません。
- 5、Predicted grades、Personal statement や reference、Entrance exam の結果を元にケンブリッジから面接の招待が12月上旬にかけて(面接の日の5日ほど前に)届きました。ケンブリッジは高い確率で面接に呼ばれるのに対し、オックスフォードは面接に呼ばれるハードルはもう少し高くなります。結構ギリギリに予定が伝えられるので、練習は合否がわかる前から初めておいた方がいいと思います。
- 6、面接は、今年はオンラインで行われました。緊張しすぎてあまり覚えていませんが、自分の興味ある分野の専門家と話せるチャンスだったのでとても興奮していたのを覚えています。また、面接が2回に分けられていたのですが、間の30分は心が落ち着かずずっとソワソワしていました。

Christmas holiday

- 1、今まで優先順位が低かった **A-level** の勉強をリスタートしました。今まであまり重点的にやっていたいなかったため、**Year13** の最初の方の内容で忘れていた部分があり、それを思い出して本試験に向けて少しずつ準備を始めました。
- 2、オックスブリッジ以外の大学から少しずつ結果が送られてきます。私は、**KCL** の **Biomedicine** からオファーを早い段階でいただいていた。Excter の **Medicine** からは **interview** の招待が届きましたが **Queen Mary University** の **Medicine** から面接にも呼ばれず **Reject** されました。

Spring term

- 1、**Mock** テストが学期明けにありました。Predicted grade には影響しませんが、自分の今の位置を確かめる上で良い機会だったと思います。
- 2、オックスブリッジの結果が1月に一斉に開示されます。結果発表の日は緊張で全然授業が身に入りませんでした。結果は第一志望のカレッジから **Conditional offer** をいただくことができました。面接や **PS** などで様々な手助けをいただいていた結果だったと思います
- 3、**IELTS** の練習を軽く始めました。この時はすぐにクリアできると甘く考えていましたが、後述しますがこの後 **IELTS** に散々苦しめられることになります。
- 4、全ての教科でほとんどの内容を学習し終え、休暇中には過去問を解きはじめられるようになります。

Easter holiday

- 1、**A-level** に向けて勉強をしました。この時点で生物が一番心配だったので、主に生物の復習をしました。教科を絞って勉強をしたので時間に余裕ができ、これまでの留學生活の中でなぜか一番ゆとりがありました。気分転換に料理をしたり散歩に行ったりと、精神的にも追い詰められず伸びやかに過ごせました。

Summer term

- 1、**study leave** が始まり学校の授業が全て終わったので、自分で勉強を進めるようになりました。自分のペースで進められるのがよかったです。
- 2、この時期によく自分の **IELTS** が大変なことに気づきました。というのは、大学からの条件は **Overall 7.5** 以上、**Each component** で **7.0** 以上なのですが、ライティングのパートが何回受けても **6.5** 止まりなのです。友人が次々と **IELTS** をクリアして **A-level** の勉強に集中している中、自分は **IELTS** も **A-level** も同時並行で進めなければならないプレッシャー、そしてもし **IELTS** がクリアできなかったらという不安でいっぱいでした。
- 3、**A-level** の本試験中は **nightmare** でした。まず1個目の試験 **furthermath** だった前日の夜に、5回目に受けた **IELTS** でも **writing** が **6.5** だったことが発覚。そして次の日 **further maths** の問題が劇的に難化し、時間内に問題が解ききれず絶望を味わいました。また、学校の近くで野外コンサートのリハーサルがなぜか爆音で連日夜遅くまで行われていたからか、夜なかなか寝付けなくなりました。今までずっと健康で元気に生活していましたが、この期間は眠りが浅く、あまり食事喉を通らず体重が減りました。ルームメイトと **A-level** が終わったらやりたいことを話すことで自分を奮い立たせました。身をもって感じたアドバイスとしては、1月以降少し時間があるので、**IELTS** はこの時期に集中して終わらせたほうが良いと強く思います。**IELTS** も **A-level** も同時並行で進めるのは、体力的にも精神的にも負担が大きいかもしれません。
- 4、思っていたほど他教科は難化しなかったので無事に **A-level** を終え、友人と外に遊びに行つてゆっくりしてから帰国しました。

帰国後

- 1、**A-level** や **IELTS** の結果が出て、無事大学から提示された要件を満たすことが出来ました。**A-level** の受験が終了してから結果が出るまで2か月ほどあり、結果が出るまでがとても待ち遠しかったです。そして結果が出てから **Visa** などの手続きが始まり、大学生になる実感が湧いてきます。

参考：UCAT について

5つのパートに分かれていて、医者としての素質を見る試験です。

UCAT category	Duration	Questions	Topics & Skills tested
Verbal Reasoning	21 minutes	44	Comprehension skills
Decision Making	31 minutes	29	Ability to solve text and visual data-related questions
Quantitative Reasoning	25 minutes	36	Numerical skills
Abstract Reasoning	12 minutes	50	Ability to spot patterns and ignore irrelevant information
Situational Judgement	26 minutes	69	Capacity to understand real-life situations and behave appropriately

1、Verbal reasoning：21分の中に200-300wordsのエッセイを11個読んで質問に答えるのですが、単語が難しくて内容がわからなかったり、そもそも時間内に読み切るのがイギリス人でも難しいので結果はあまり良くなかったです。ただ、平均スコアも低く、さらに他のパートでリカバーすることも十分可能だと思います。

The screenshot shows a web browser window with the URL `abe-prd-1.pvue2.com/st2/driver/startDelivery?sessionUUID=e7f016f8-f114-4f84-b221-518ecb5152c7`. The page title is "Verbal Reasoning" and it is page 1 of 173. The question is: "Which of the following can be deduced from the passage?" with four options (A, B, C, D). The passage text is as follows:

Rope is made from fibres of material which are twisted together to make 'yarn', which is then twisted together into 'strands'. In the more common 'laid' rope, the strands are then twisted again in the same direction, to form the rope itself. However, the number of twists may cause the fibres to abrade and break, weakening the rope. Laid rope also has a tendency to *untwist*, which may fray unless the ends are bound.

In *braided* rope, eight or more strands are woven or plaited together, to form a smooth cylinder. The inside of the cylinder can be hollow, or filled with another rope with different properties. For example, in a *double braid*, there may be a strong braid as the inner core, covered with a soft braid to make handling easier.

Rope can be made of various materials. Natural fibres, such as hemp, sisal or manila, tend to shrink when wet, and be prone to rot and degrade, especially when exposed to dirt and sea water. Synthetic fibre ropes are generally far stronger and have a range of properties:

- Nylon rope is strong and has a lot of stretch which is useful for 'give'. However, when it is wet it doesn't float and can lose up to 25% of its strength. It is degraded by rot and UV light.
- Polypropylene is not as strong as nylon, but is cheaper, doesn't absorb water and floats. It deteriorates in UV light, and may melt if subjected to heat such as friction.
- Polyester rope wears better than polypropylene, is resistant to UV light, almost as strong (but not as stretchy) as nylon. It retains its strength when wet but does not float.

The question options are:

- A. Nylon is stronger than polypropylene, which is stronger than hemp.
- B. Polyester is more elastic than nylon, which is more elastic than manila.
- C. Double braided ropes are stronger than braided, which are stronger than laid.
- D. Hemp is stronger when wet than nylon, which is stronger than polyester.

At the bottom of the page, there are buttons for "End Exam", "Navigator", and "Next".

2、Decision making：論理パズルのようなものです。文章を読み飛ばさずしっかり順を追って回答をしていけばできるようになると思います。ただ、出題のされ方にクセがある時があるので時間をかけて準備するのいいと思います。


Decision Making

1 of 31

Explain Answer Calculator Flag for Review

Every year Madrigal School has a school photograph taken. Eight teachers sit at the front in a row.

Mr None sits fifth from the left with Mrs O'Rourke and Mr Percival on either side.
 Mr Rowley sits as far away from Mrs O'Rourke as possible.
 Mr Stephen sits next to Mr Percival.
 Miss Zenzer does not sit beside Mrs O'Rourke or Miss Trollope.
 Mr Warlock sits three seats away from Mr None.



Camera

Which one of the following statements MUST be true?

- A. Miss Zenzer sits at the far left of the row.
- B. Mr Stephen sits next to Mrs O'Rourke.
- C. Mr Warlock sits next to Mr Percival.
- D. Miss Trollope sits at the far right of the row.

End Exam Previous Navigator Next

3、Quantitative reasoning：数字がめんどろな算数の問題です。処理速度が問われるので、DMとは違ってどれだけ速く必要な情報だけをピックアップして処理できるかが大切です。私は個人的に一番の得点源でした。おすすめは、何を聞かれているかを最初に読んでからデータを読むしていくことです。

Quantitative Reasoning

1 of 155

Explain Answer Calculator Flag for Review

The table shows the total tax paid, in dollars, on annual taxable income.

Annual Taxable Income Bracket (\$)	Tax Rate	Total Tax Paid (\$) at the Top of This Taxable Income Bracket
0 - 8,950	10%	895
8,950 - 36,250	15%	4,990
36,250 - 87,850	25%	17,890
87,850 - 183,250	28%	44,602
183,250 - 400,000	33%	116,129
400,000 and over	39.6%	

For example, a person with an annual taxable income of \$60,000 will pay \$4,990 plus 25% of (\$60,000 - \$36,250).

Bill has an annual taxable income of \$28,950.

To the nearest dollar, the income tax he has to pay is:

- A. \$2,895
- B. \$3,895
- C. \$4,342
- D. \$4,510
- E. \$5,237

End Exam Navigator Next

4、Abstract reasoning：問題数がとても多いので、QRと同じく処理速度が求められます。これは、出題傾向を掴むまでは点数が伸び悩むかもしれませんが、一度全パターン把握しきればあとは当てはめるだけなので比較的解きやすいと思います。

5、Situational judgement：これは様々な状況下で倫理的にどのような判断を下すことが最適かを問う問題です。まず日本とイギリスで価値観が全然違うせいで苦手意識がありました。例えば、残業に対する考え方が全く違いました。ただ、これは点数ではなく1から4段階評価（1が最も高い）で4を回避すればどうにかなるので、私は2を目指しました。結果は3で少し落ち込みましたが、他の結果が悪くなかったのでSTJを重視しない学校を選ぶことにしました。